

平成 2 4 年 度
事 業 報 告 書

自：平成 24 年 4 月 1 日
至：平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

概 況

平成24年度は、管理運営活動として所要の会議等を開催し合意形成を図るとともに、財団法人から公益財団法人へと移行するため、新役員の選定、諸規定の整備等の準備を進め、平成25年4月1日に公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構として新たなスタートを切った。

研究開発事業活動においては、琵琶湖・淀川流域の水質保全に向けた調査研究や研究助成を積極的に行うとともに、水環境情報の提供、水質浄化に係わる広報・啓発活動を通じて、流域の連携や水環境保全活動の推進を図り、琵琶湖・淀川流域の水環境課題の解決に向けた取組を展開した。

I . 管理運営活動等

1. 理事会、評議員会、運営委員会

理事会、評議員会、運営委員会では、事業運営全般について審議検討を行った。

(1) 理事会

第1回理事会 平成24年6月29日（於：ホテルプリムローズ大阪）

第2回理事会 平成25年2月27日（於：ホテル阪急インター
ナショナル）

(2) 評議員会

第1回評議員会 平成24年6月29日（於：ホテルプリムローズ大阪）

第2回評議員会 平成25年2月27日（於：ホテル阪急インター
ナショナル）

(3) 運営委員会

第1回運営委員会 平成24年6月8日（於：大手前センタービル）

第2回運営委員会 平成25年2月7日（於：大手前センタービル）

2. 公益法人改革

公益財団法人への移行に向けた手続きについて、平成24年3月23日に内閣総理大臣あて移行認定を申請し、平成25年3月19日付けで認定を受け、平成25年4月1日に「公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構」として登記した。

また、公益財団法人への移行を踏まえ、機構諸規定について改定・整備を行うとともに、パンフレット「公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構のあらまし」の作成、ホームページの刷新等を行った。

Ⅱ . 研究開発事業等

平成24年度は、平成23年度に引き続き、琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題について「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標のもと、自主研究や研究助成、広報啓発などの事業を実施した。

1. 水質保全調査研究開発事業(自主事業)

(1) 生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査検討

琵琶湖・淀川流域の水質に係る問題について、調査研究を実施した。主な研究結果は以下のとおりである。

① 流域管理における面源負荷のための負荷量実態調査

流域の面源負荷汚濁源である道路塵埃に関するデータを収集し蓄積するとともに整理を行った。その結果、有機物(TOC測定)は大部分が粒子態成分で検出されることが明らかとなった。

② 難分解性有機物を対象とした水質指標の検討

難分解性を含む初期路面排水の有機物質について、様々な測定方法による比較および生分解性試験を実施した。TOC、COD_{Mn}、COD_{Cr}の測定方法でそれぞれ分析した結果では、TOCとCOD_{Mn}は同様な値であったが、COD_{Cr}は他の測定方法より2倍以上の濃度を示した。また、生物で分解しにくい難分解性有機物は、TOC、COD_{Mn}、COD_{Cr} それぞれ54～74%、62～81%、72～80%でいずれも高い割合を占めた。

③ 琵琶湖・淀川流域を捉えた水質データの解析

流域の水質データを用いた経年変化、把握等により、今後の水質管理策定や対策のための検討補助となる図示化・統合化の検討を行った。

平成24年度は、水質項目として水温、pH、SS、BOD、COD、全窒素、全リン等、面的データとして気象や土地利用、人口密度等の視点から、長期的な(1990～2010年)スパンでの流域全体の変化を3期間に区分して図化した。今後は、引き続きデータを整理し、「見える化」することで明らかになっていく水質変化の解析から水質対策の評価、水質変化の要因等を考察し、検討していく関係機関等の協議の場を設けていきたいと考える。

(2) 調査研究に関する研究成果発表、情報収集等

① 情報提供

- ・ 土壌浸透浄化手法の実験成果資料を作成し、各関係機関等に配布した。
- ・ 琵琶湖・淀川流域の水質保全のために、流域の水質保全対策の取り組みをとりまとめ作成資料を各関係機関等に配布した。

② 外部発表

- ・ 第12回環境技術学会研究発表大会(2012年9月滋賀)
「宇陀川流域における糞便性大腸菌群の現状」
- ・ 平成23年度環境省総合推進費(公社)日本水環境学会が研究受託した「非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究」の成果発表会 (2012年12月東京)
「市街地からの流出負荷量の実態と検討課題」
- ・ The future of water quality monitoring for Lake Biwa, Aquatic Environmental Monitoring, Water 21, February 2013, International Water Association, 21-22.
- ・ 第47回日本水環境学会年会 (2013年3月11～13日大阪)
「有機物からみた道路排水汚濁負荷に関する考察」
「淀川流域における難分解性有機物負荷量の推定」
- ・ 平成24年度環境省総合推進費(公社)日本水環境学会が研究受託した「流域に沈着した放射性物質の移動と消長に関する文献調査及び知見整理に関する研究」の成果発表会 (2013年3月東京)
「市街地からの放射性物質の流出」

③ 講義・講演など

- ・ 台湾水利署による国立台北科学技術大学での招聘講演 (2012年5月)
- ・ スペインより環境コンサルタント視察 (2012年6月)
- ・ JICA湖沼環境保全のための統合的湖沼流域管理 (2012年7月)
- ・ 大阪水道企業団(JICA)バンコク首都圏水道公社研修 (2012年9月)
- ・ 国際湖沼委員会(ILEC, JICA)琵琶湖・淀川の水質保全, 水質浄化技術 (2013年2月)

④ インターンシップの受け入れ

- ・ 摂南大学理工学部より3回生1名(2012年8月20日～9月7日)

(3) 調査研究に関する外部研究委託への参加取り組み

平成24年度環境省総合推進費(革新型研究開発領域総合評価枠)にて、(公社)日本水環境学会が研究受託(研究代表者：東京大学大学院工学系研究科教授 古米弘明氏)した「流域に沈着した放射性物質の移動と消長に関する文献調査及び知見整理」にて、検討会委員として会議等など研究成果のとりまとめに携わった。

(4) 学術委員会の開催

水質保全のために実施している調査研究の現状を報告し、指導や助言を得た。

- ・ 開催日：平成25年1月7日
- ・ 会場：エルイン京都
- ・ 議題：
 - ①水質保全研究助成について
 - ②調査研究の概要について

(5) 琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の作成

琵琶湖・淀川水質浄化研究所における全業務の実績内容(研究論文、報告等)を平成5年度からとりまとめており、平成24年度においても平成23年度の業務をとりまとめた所報を作成した。

2. 水質保全啓発事業

(1) BYQ水環境レポートの発行

琵琶湖・淀川水系の水利用、水質等の概要など、流域圏の関係データをまとめた資料である年次報告書「BYQ水環境レポート」を機構発足時から発行している。平成24年度は、平成23年度版として500部作成し、関係機関や図書館等に配布した。

なお、ホームページには、本報告書の概要版として、「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」を掲載した。

(2) WAQU²（わくわく）調査隊の実施

身近な湖沼・川の水質を住民自ら調べることにより、水質に興味を持ち、水環境について考えてもらうきっかけづくりを目的として実施しており、5月の調査では「身近な水環境の全国一斉調査」にも参加した。

平成24年：隊員数394人、調査地点496カ所(うち2回参加：222人)

調査日：平成24年5月26日、11月24日

(3) BYスタンプラリーの実施

住民の水環境改善活動への参加のきっかけとし、活動団体相互のコミュニケーションと連帯感の向上を目指すためにNPO等の協賛のもと、平成16年3月から実施している。

- ・ 協賛施設：25施設
- ・ 協賛団体：NPO、市民団体等56団体
- ・ 参加者数：107人

(4) 琵琶湖・淀川に関する水情報冊子の発行

流域内の河川について、水に関する歴史や見所などを紹介する情報誌を企画編集した。平成24年度は「猪名川」「名張川」「琵琶湖疎水」「中河内の川」「赤野井湾と流入河川」の5冊を発行し、関係機関や一般に配布するとともに、ホームページ上に掲載した。

(5) 出展・講座等

○出前講座

- ・ 平成24年12月 「すいたシニア環境大学」

3. 水質保全活動支援事業

平成21年度より、地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域における水質保全の課題解決に資することを目的に、研究助成を実施している。

(1) 水質保全研究助成

平成24年度は、平成23年度からの滋賀県立大学の継続1件に、立命館大学、大阪市立環境科学研究所、兵庫県環境研究センター、京都大学、大阪大学の新規6件を加えた7件を選考委員会にて採択した。助成した研究内容について3月に報告会を開催し、幅広く成果の共有を図った。

【平成24年度研究テーマ】

- ①水系水質管理のための有機汚濁物質やそのリスク評価に関する研究
- ②琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究
- ③琵琶湖・淀川流域における糞便性大腸菌などの微生物の動態把握と削減技術に関する研究

【成果報告会】

- ・開催日：平成25年3月22日
- ・会場：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
- ・参加人数：行政、企業、団体等 約60名